

## (基調講演 2) 製造業をめぐる現状と課題への対応

西垣 淳子 (にしがき あつこ) 経済産業省 製造産業局ものづくり政策審議室長

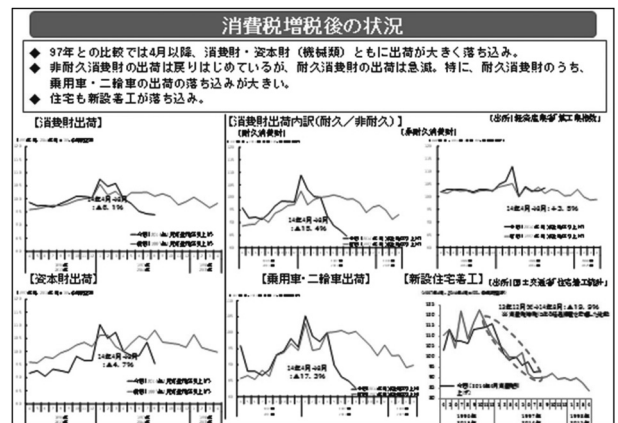
**要約** 現在、日本の貿易収支は大幅な赤字で、経常収支の黒字縮小も心配されるところです。現在の円安局面においても輸出が伸びないように、製造業の海外展開は進んでおり、輸出で稼ぐ新たな担い手が重要になっております。そうした中、日本の新たな稼ぎ手として地域に根ざしながら高い世界シェアを持つグローバルニッチトップ (GNT) 企業を 100 社選定しました。まずはこれらの方々に頑張ってもらおうと、特に中小・中堅企業の GNT 企業に対して人材育成や製品開発、特に海外の販路開拓までの支援を強化していきます。また、オープンネットワークがイノベーションを起こすのに重要ということで、新しいタイプのモノづくりベンチャーを支援する仕組みも検討しているところ です。こうした支援を行うことで、大企業ではできないような重要な技術を持つ小さなニッチ企業を応援していきます。さらに、最近ではデジタル化により製造業が変容しています。モノのインターネット化 (IoT) により、全てのモノがつながることを前提に製造業のビジネスモデルも変わりつつあります。こうした取り組みは欧米で先行していることもあり、わが国でもうまく情報通信技術 (ICT) を利用し、製造業の競争力を強化していくことが求められています。今後、日本企業は単に良い技術、製品を出していくだけでなく、製品の稼働状況をデータ分析するなどを通じて修理保全などのアフターサービスを行うなど、さまざまな工夫が必要だと思 います。

本日は 3 点お話ししたいと思います。1 点目は製造業を巡る現況、2 点目は新たな稼ぎ手の育成 (GNT 企業)、3 点目は国内のモノづくり力の強化です。モノづくりの世界にデジタル化の波が押し寄せて来ている、日本はこうした動きに少し遅れているという危機感を持っています。こうしたお話をさせて頂ければと思います。

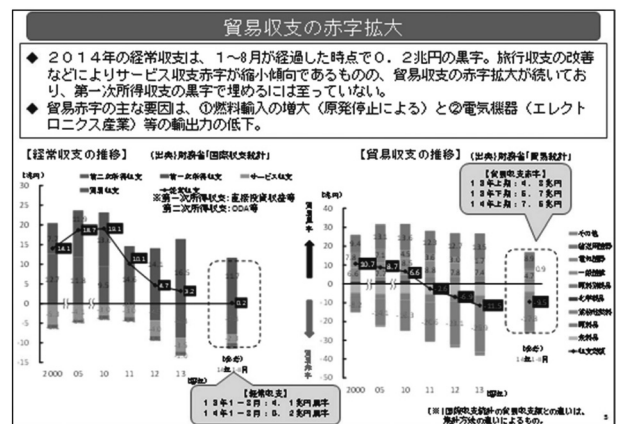
まず製造業の現況です。現在 (平成 26 年 11 月時点)、消費増税で景況感は非常に落ちていると思います。前回の増税時 (1997 年) と比べると、戻りが遅いと感じています。住宅がなかなか戻りません。また、景気が良いと言われる自動車業界も国内需要は戻っていません。円安で輸出が伸び、景気が回復するという従来の構図ではなくなっています。どうしたら良いかが大きな課題になります。

国内の景気で気になる指標は、設備投資の動向です。設備投資促進税制の中で今後の設備投資の見通しに関する数字を取る事ができ、かなり良い数字が出ているのですが、これだけ強気に行けるかが気になって来るところです。国内生産回帰の動きも有ります。また既存設備で生産増強したとの話も有ります。次に気になるのは貿易収支です。貿易収支は赤字化し、赤字幅が拡大しつつあります。燃料輸入の増大に円安が追い打ちを掛けています。日本の輸出を牽引してきた自動車と電機のうち、電機が減少しております。しかし、電機の中でも要素技術とか素材等、まだまだ日本には強い分野もあります。

企業の稼ぎ方が変わってきているのであれば、貿易収支の黒字化だけでなく、経常収支で黒字をしっかりと育て、海外で稼いだものを国内に還元できるか、還元できる新しい投資先を国内に生み続けられるかどうか、そのためには国内のイノベーションをどう支援し



【スライド 1】



【スライド 2】

ていけるのかが政策課題に変わって来ていると思います。そういう意味では、経常収支の黒字が減少しているのが心配であり、年末の数字を注視していきたいと思っています。

国内産業を支えるだけでなく、貿易赤字をどう減らしていくのが政府の関心事です。新たに輸出をして